

- 住友化学株式会社・産業技術総合研究所訪問
- 理事会が開催されました
- 学生インタビュー ノブレ・ストロプさん（ジンバブエ）
- 国連大学創設40周年記念特別シンポジウム開催

国連大学大学院生、日本の最先端技術に感動

住友化学株式会社筑波開発研究所・国立研究開発法人産業技術総合研究所 訪問



国連大学協力会は、世界各国から日本へ学びにきている国連大学の大学院生を、毎年企業見学ツアーへご招待しています。今回は、去る12月15日に jfScholarship 特別賛助会員として多大なご支援を頂いている住友化学株式会社の筑波開発研究所と、国立研究開発法人産業技術総合研究所を訪問しました。

住友化学株式会社 筑波開発研究所

まずはじめに、住友化学株式会社筑波開発研究所を訪れ、同社が現在開発に力を入れている、次世代エネルギー技術についてご講義いただきました。「ウェアラブル電池」を可能にする有機薄膜太陽電池や、様々な色をより効率よく点灯することを可能にする高分子有機ELなど、地球規模課題解決のキーとなるような最先端の技術とアイデアの宝庫に、学生たちは皆身を乗り出して研究者の方々のお話に聞き入っていました。その後見学した展示ブースでは、アフリカを中心に現在80か国以上で使用されている防虫剤処理蚊帳「オリセット®ネット」について説明をうけ、環境に悪影響を及ぼすことなく蚊から人体を守る機能性

や安全性の高さなどに高い関心を寄せていました。また、研究所内も見学させていただき、研究や仕事に没頭する姿に心打たれたようでした。研究所の見学が終わった後も興奮は冷めやらず、お食事を頂きながら研究所の方々を囲んで熱心に質問をしていました。Macnight Ngwese Nsiohさん（修士1年 カメルーン）は、「高分子有機ELの研究が非常に興味深かったです。研究者の方々は、太陽光発電の常識を覆すような研究に懸命に取り組んでおり、非常に感銘を受けました。」と研究者の方々の熱意に感動した様子でした。





国連大学協力を応援しよう

—継続して寄付したい—



● 賛助会員 ●

国連大学の研究プロジェクトや企業訪問、日本文化体験など国連大学や国連大学協会の活動を様々な角度からご支援いただける制度



● jfScholarship 賛助会員 ●

寄付は専ら国連大学大学院で学ぶ外国人学生への奨学金へ使用される。勉学に励む学生の生活基盤をご支援いただける制度

—単発で寄付したい—



● ジャパンギビングで寄付 ●

キャンペーン第1弾は、今年9月までに国連大学大学院生1名分の奨学金200万円を目標としています

ジャパンギビング 国連大学協会 検索



本法人への寄付には公益財団法人としての税制上の優遇措置が適用され、寄付者は所得税・法人税の控除が受けられます。個人の寄付については内閣府より税額控除制度の適用も認められております。詳しくは事務局までお尋ねください。

—国連大学協会—

TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

www.jfunu.jp/ Email/jf@unu.edu

国立研究開発法人産業技術総合研究所

続いて国立研究開発法人産業技術総合研究所を訪問。最先端技術の研究成果が展示されているサイエンス・スクエアと地質標本館を見学しました。

捨てられた携帯電話やパソコンからレアメタルや貴金属を高精度で取り除くりサイクル技術や、無充電で電子機器を長時間稼働することを可能にする「スピントロニクス」、電力制御の性能を格段にあげるパワーエレクトロニクスなど、数々のグリーンテクノロジーを見学しました。また、世界一の癒し効果があるとしてギネスブックにも紹介されているアザラシ型ロボット「パロ」とのふれあいができるブースでは、学生たちはパロに勉強の疲れを癒され、ロボット・セラピーの効用を実感したようでした。

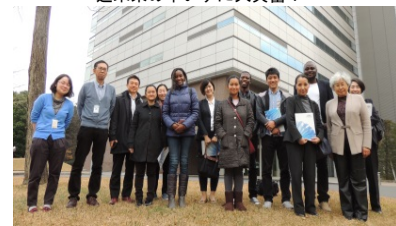
また、360度死角なく距離情報を把握する「全方向ステレオシステム」を搭載した未来の車いすを実際に試乗し、走行中に障害物をよけ安全な道を自動的に選択して走行するなど様々な支援機能を持つインテリジェント電動車いすを体験。安全な未来の社会を描きながら、その研究の奥深さに熱心に耳を傾けていました。



パロに癒されるアルバレスさん
(修士1年 フィリピン)



近未来の車いすに大興奮！



記念の集合写真をパシャリ

News ! 国連大学協会の理事会が開催されました

2015年11月20日、国連大学本部ビル5階のエリザベス・ローズ国際会議場にて臨時理事会（通算第29回）、臨時評議員会（通算第17回）が開催され、国連大学協会の役員・評議員はじめ、国連大学の関係者や関係各省から多くの出席があり、活発な議論が行われました。2016年度国連大学協会の事業計画並びに収支予算等の審議が行われ、審議の結果、異議なく承認されました。

会議に先立ち、国連大学より、国連大学協会からの支援が大変有効であるとの感謝の意が表されました。竹本和彦国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）所長より最近の国連大学の動向について、スリカンタ・ヘラート学術審議官より大学院の状況について報告がありました。

同大学院サステナビリティ学研究科が、2015年3月末に日本国の独立行政法人大学評価・学位授与機構により「機構の定める大学評価基準を満たしている」と認定されたことや、7月に初めて3名の博士課程修了者を輩出したこと、また、東京大学とのジョイントディプロマや上智大学との単位互換提携を結んだことなどに触れ、大学院プログラムはますます充実したものとなっているとの報告がありました。その他、国連大学40周年記念特別シンポジウムを開催したことや、11月には天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り、両陛下に世界各国から来ている大学院生とご懇談いただいたことなどが紹介されました。

特集 UNU で 学 ぶ



気候変動から

豊かな自然と水産業を守りたい

博士1年 ノブレ・ヌドロブ
ジンバブエ出身。専門分野は水資源管理。
研究テーマ「カリバ湖の自然資源に依存する
コミュニティと漁業の脆弱性評価及び気候
変動に対する適応策」

ジンバブエってどんな国？

四方を隣国に囲まれた内陸国。首都はハラレ。国土面積は日本とほぼ同じだが、人口は日本の10分の1ほどである。亜熱帯性のサバンナ気候で比較的温暖なジンバブエは、世界三大瀑布のビクトリア滝や、アフリカ南部でも最も開発の手が入っていない世界遺産マナプールズ国立公園など、数々の雄大な大自然が多く残されている。



国連システムの中の大学院という特殊な性格を持つ国連大学大学院サステナビリティ学研究科では、世界各国から学生が集い、地球規模課題の解決をめざし昼夜研究や勉強に励んでいます。今回の特集では、そんな彼らの素顔をちょっぴりレポートします。

博士課程 1年 | ノブレ・ヌドロブ Nobuhle Ndhlovu

母国ジンバブエでは政府機関である Zimbabwe Parks and Wildlife Management Authority で水産業についての研究員として働いていました。昨年9月から国連大学大学院サステナビリティ学博士課程に在籍しています。国連大学での勉強は大変ですが、国連システムの中で影響力のある先生が教えるコースがあるなど非常に有意義です。

将来は食糧農業機関 (FAO) で活躍したい

博士課程を終えた後は、是非国連で働きたいと思っています。カリバ湖の自然に依存しているコミュニティと漁業の脆弱性の評価と気候変動に対する適応案についての研究を行っているので、将来は特に食糧農業機関 (FAO) の漁業水産部門で私の研究を活かしたいと思っています。

更に一層 UNU での勉強に動きたい。

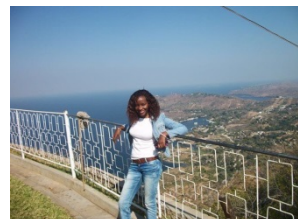
国連大学での勉強はとても大変です。しかし結果を残せば、博士として認められるだけの技量が身についたという事になりますから、頑張ります。次学期ではさらに集中して自分の研究に取り組んでいきたいと思っています。

国連大学協力会のサポートに感謝

また、国連大学協力会からの奨学金とプロジェクトへの助成には本当に感謝しています。奨学金を得て国連大学で勉強できるという事は、私にとってまさに人生を変える出来事です。もちろん他の学生も皆同じように思っていると思いますが、奨学金のおかげで日本に来ることができ、勉強の機会を得られたことにとっても感謝しています。また、日本の科学技術分野を見学できる企業・研究所訪問プログラムや、日本文化の歌舞伎を見る機会を随時与えてくださる国連大学協力会にはとても感謝しています。いつも本当にありがとうございます。次の文化交流イベントを心待ちにしています。

母国の好きなところを教えてください

ジンバブエの良いところは、豊かな生態系と雄大な大自然、観光リゾートです！野生の動物に会うことができる、非常に素敵な国です。世界七大自然景観のひとつにも認定されたヴィクトリア滝は絶景です。私が研究活動をしているカリバ湖 (右写真) も美しいリゾートですよ。



—UNU アクティビティレポート—

「科学と政策者とのさらなる対話を」

国連大学創設 40 周年記念特別シンポジウム（後援 国連大学協力会）

“持続可能な開発のための 2030 アジェンダの実施に向けて”



2015 年 11 月 6 日、国連大学創設 40 周年を記念する特別シンポジウム「**持続可能な開発のための 2030 アジェンダの実施に向けて**」が、ウ・タント国際会議場で開催されました。今回のシンポジウムは、国連大学のこれまでのあゆみを振り返るとともに、昨年 9 月に採択された「**持続可能な開発のための 2030 アジェンダ**」の実施に向け、今後国際社会がどのように取り組んでいくべきか考えるものでした。アジェンダの策定につき重要な役割を果たした「**プラネタリー・バウンダリー**」研究の第一人者であるストックホルム・レジリエンス・センター所長のヨハン・ロックストローム氏をはじめ、地球環境ファシリティ CEO 兼議長である石井菜穂子氏による基調講演が行われました。最後には各界の第一人者と会場を巻き込んだパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換がなされました。

「原子力技術の平和利用、2030アジェンダに大いに貢献できる」

国連大学公開対談シリーズ

“平和と開発のための原子力” 国際原子力機関事務局長 天野之弥氏

2015 年 10 月 8 日(水)に開催された、国連大学公開対談シリーズでは国際原子力機関 (IAEA) 事務局長の天野之弥氏を招いて「**平和と開発のための原子力**」と題し、今地球が抱える核不拡散問題や、原子力平和利用の推進が地球規模課題の解決にいかに関与しうるかなど、多岐にわたり活発な議論が繰り広げられました。



イランの核問題に関する最終合意である小括的共同作業計画 (JCPOA) の実施における IAEA の取り組みに触れ、天野事務局長はイランへの査察課程は健固な中立性をもって行われていると説明。また、9 月下旬に国連総会で採決された「**持続可能な開発目標**」について 17 に上る持続可能な開発目標 (ゴール) のうち、放射線は 13 ゴールに貢献できる潜在的な可能性がある」と述べました。その例として、通常 4 日かかるエボラウィルスの探知が原子力技術を利用したことで 4 時間に短縮された実績を紹介。世界規模課題解決に向け、こうした技術の平和的利用を推進することへの協力を呼びかけました。

UNU の主な一般公開イベント

国連大学では、各研究所の研究成果や国際協力の各方面の第一人者をお呼びして地球規模課題の解決に向けた策定を皆様と共に考える、様々なイベントを随時開催しています。是非ご参加ください。

国連大学公開対談シリーズ

地球規模課題の解決に取り組む各界の第一人者を招き、国連大学学長またご来場者の皆様との対談を通じて解決への道筋を模索するイベント。

ライブラリートーク

国連大学および国際社会が関心を持つテーマについて出版された近刊書籍の編著者から、本の紹介や研究の趣旨についての講演と参加者との意見交換の場も設けられている。

UN CAFÉ

国際機関でのキャリアを考えている若手社会人と学生を対象にしたイベント。国連をはじめとした国際機関において、世界のさまざまな現場で活躍するゲストが登場するこのイベントでは、国際機関で働く醍醐味ややりがいについて直接聞くことができる。

各種シンポジウム

UNU-IAS、UNU-CPR の研究発表をはじめ環境省や GEOC との合同シンポジウムなど様々な分野の研究の最先端に触れることができる。

国連大学協力会では、このような国連大学のイベント情報やニュースなど耳よりな情報を公式ホームページにてお届けしています。



詳しくはコチラ！

国連大学協力会

検索

